



3/30 お得な料金で南阿蘇を満喫 水と桜の南阿蘇村満喫キャンペーン

桜が見ごろを迎えた3月30日から4月7日、「水と桜の南阿蘇村満喫キャンペーン」が行われ多くの観光客が村を訪れました。

昨年からはまった同キャンペーンは、福岡（天神・博多）から「あそ望の郷きぎの」までを直行の西鉄高速バスが往復3,000円で運行し、村のボランティアガイドが案内する無料観光周遊バスと連動。さらに今回は、宿泊プランも設定し、そば打ち体験なども行われました。

参加した福岡市の女性は、「そば打ちは初めて。南阿蘇を満喫できました」と話されました。



村観光周遊バスのガイドとそば打ち体験をする観光客

3/25 白熱の戦いで全国3位 桑野こゆきさん（久木野中）

佐賀県総合体育館（佐賀市）で開催された「全国スポーツ少年団剣道交流大会」女子個人戦で、久木野中学校2年生（当時）の桑野こゆきさんが熊本県代表で出場し、全国3位に輝きました。

試合は、各都道府県から47人が出場。白熱した戦いが繰り広げられました。

昨年の大会では2位だった桑野さんは、「今回の試合では、自分の力不足で思うような成績を残すことができませんでした。来年は優勝目指して頑張ります」と抱負を話してくれました。



全国3位に輝いた桑野こゆきさん

4/23 南阿蘇水力発電株式会社が設立 198kWの小水力発電事業を計画中

河陰地区の農業用水路を活用した小水力発電事業を計画している南阿蘇水力発電株式会社の、事業説明会が久木野庁舎で行われました。

同社は、本村河陽に所在し、村内の企業、個人のほか、県内の企業などが出資して設立。

発電事業は、事業費約3億6千1百万円、久木野村土地改良区の農業用水路の流末から、総延長932m、有効落差約37mの高低差を利用して最大出力198kW、年間発電量137万kWh（一般家庭の約300軒分）、年間売電料約4千7百万円を計画。

同社は今後、発電事業への融資や出資者を募り、本年7月からの事業着工、来年6月の操業開始を目指して、準備を進めています。



現地説明を受ける報道関係者

4/6 色とりどりの花でお出迎え 株式会社 南陽建設ボランティア活動

河陽地区の国道325号線の一画で、株式会社南陽建設従業員によるボランティア活動が行われ、観光シーズンを前に色とりどりの花が植えられました。

この活動は、信号待ちで停車中のドライバーや観光客に喜んでほしいという思いで始められたもので、毎年取り組まれています。

花壇には、ペチュニアやマリーゴールドなど数種類が植えられ、これからの季節、通る人の目を楽しませてくれます。



花植えをする従業員の皆さん

4/30 魚が住みやすい環境をいつまでも 白川漁業協同組合アユの稚魚放流

白川漁業協同組合（坂田拓穂組合長）によるアユの放流が立野地区の白川河川敷で行われ、約1万5千匹のアユの稚魚が放流されました。

稚魚の放流は、環境への取り組みの一環で行われており、3月下旬から5月上旬にかけて放流。今回は、放流場所が昨年の九州北部豪雨災害の影響で復旧工事のため、藤本建設工業(株)の協力を得て行われました。

同組合の山内征次さん（立野駅）は、「この南阿蘇の自然、魚が住みやすい環境をいつまでも残していきたい」と自然環境への思いを話されました。



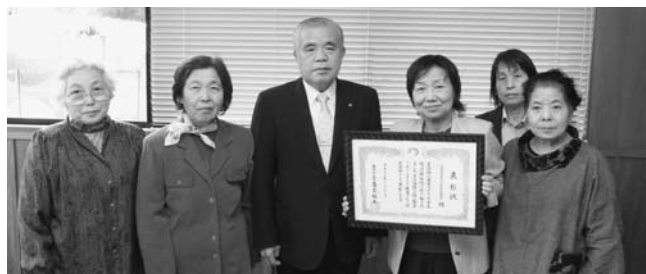
稚魚を放流する白川漁業協同組合の皆さん

4/26 健康への取り組みに表彰状 村食生活改善推進員協議会

3月22日、「平成24年度熊本県医事・薬事・健康づくり功労者及び優良団体等知事表彰」で、本村の食生活改善推進員協議会（岩根美千代会長）が表彰され、4月26日、その報告に久木野庁舎を訪れました。

同協議会は、平成17年7月に結成。村の健康課題である糖尿病境界型や高血圧症の減少に向け、健診時や各地区公民館の講習会などで減塩・減糖の推進に取り組まれています。

会長の岩根美千代さんは、「表彰を受けることができたのも諸先輩や、事務局など皆さまのお陰です。健康づくりの基本「よい食習慣」推進に今後も会員一同頑張ります」と話されました。



表彰された食生活推進員協議会委員の皆さんと長野村長

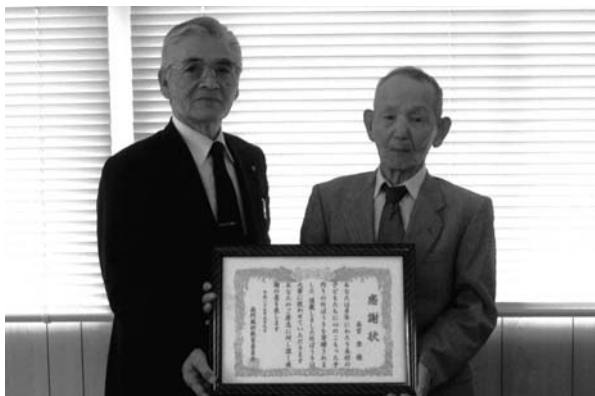
5/9 大切に使います 高宮登さん(中松一)村内小中学校に竹ぼうき寄贈

中松一区の高宮登さんが、村内8つの小中学校に手作りの竹ぼうき約260本を寄贈され、藤岡教育長から感謝状が手渡されました。

竹ぼうきは、子どもたちが利用しやすいようにと、市販の竹ぼうきより小さくて軽い仕上がり。

20年以上前から作られている竹ぼうきは、地域の方や、老人会、公民館などに寄贈されているそうです。

高宮さんは、「竹ぼうき作りは私の生きがい。南阿蘇の子どもたちのために今後も頑張ります」と述べられました。



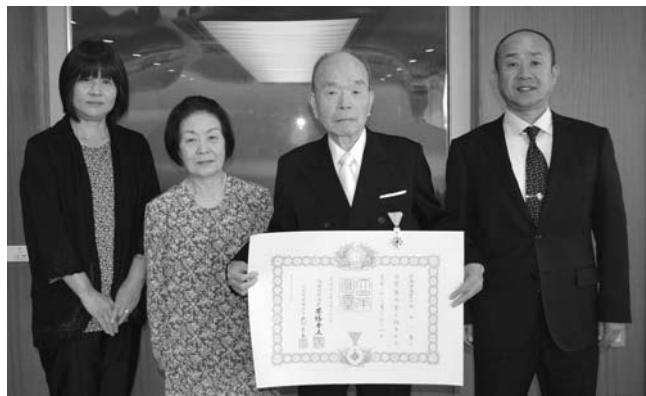
竹ぼうきを寄贈された高宮登さん(右)と藤岡教育長

5/7 長年の功績に瑞宝双光章受章 本田一男さん(喜多)

平成25年春の叙勲で、本田一男さんが瑞宝双光章を受章されました。

本田さんは、昭和21年に旧長陽村に奉職され、昭和45年に総務課長就任。昭和61年から平成9年まで11年の長きにわたり同村助役として在籍され、地方自治の発展向上に尽力されました。

受章した喜びを本田さんは「受章できたのも、皆さまの温かいご指導とご支援のおかげ。今後、この栄誉に恥じないよう一層精進してまいります」と述べられました。



受章された本田一男さんとご家族の皆さん



5/13 「あか牛、馬肉美味しかった」 修学旅行生民泊体験

例年行われている修学旅行生の民泊体験が4月18日から始まり、香川県や神奈川県の中・高校生約400人が村を訪れました。

5月13日は、香川県三豊市立豊中中学校から約100人の生徒が村を訪れ、22軒の家庭が受け入れました。生徒たちは、あか牛のバーベキューや、イチゴ狩り、農業体験を行い1泊2日の南阿蘇を満喫。離村式では受け入れ家庭と別れを惜しむ姿が見られました。

受け入れは、6月5日まで予定しています。



1泊2日の南阿蘇村を満喫した豊中中学校の生徒たち

5/11 村のアーティストたちの作品を展示 青葉の季節のアートフェスタ開催

村内アーティストたちのギャラリーや工房を開放して村全体を美術館と見立てた「青葉の季節のアートフェスタ」が5月11日から19日まで開催され、村内外から多くの人々が訪れました。

2回目を迎えたアートフェスタは、20カ所のギャラリーや工房に、木工や草木染、粘土細工などの作品を展示。ギャラリー「hand-Sewn 免の石」では、古着をリメイクしたワンピースや、ガラス細工のアクセサリなど、村内アーティストたちの作品が数多く展示され、見る人の目を楽しませました。



数多くの作品が展示された「hand-Sewn 免の石」(河陰地区)

5/17 豊かな海は豊かな森から 「漁民の森 南阿蘇」植樹祭

久石地区の村有林地で、「漁民の森 南阿蘇」植樹祭が開催され(全国漁業協同組合連合会・村主催)、全漁連や、県村関係者がコナラやクヌギなど約500本を植えました。

これは、全漁連の創立60周年記念事業と、10月開催の「第33回全国豊かな海づくり大会〜くまもと〜」の協賛行事で、県の「企業・法人等との協働の森づくり事業」を活用して行われたもの。

式典では長野村長が、「森林は、地球温暖化対策、土砂災害の防止、水源のかん養などの多様な機能を有しています。熊本の森と川、海の再生に貢献できれば」とあいさつしました。



植樹する長野村長と全漁連関係者の皆さん

5/13 冷たいけど楽しい 両併小学校でプール開き

県内でも一足早いプール開きが両併小学校(後藤利恵子校長)で行われ、児童26人(全校児童32人)が初泳ぎを楽しみました。

同小学校では、梅雨の影響で水泳の授業が減ることを考慮し、毎年この時期にプール開きを実施。この日は気温24度、水温21度で風もなく絶好のプール日和で、児童たちは「冷たい」と言いながらも元気に泳ぎました。

プール開きを終えて6年生の小出歩武くんは、「少し寒かったけど楽しかった。村や郡市の水泳大会では50mクロールの記録を昨年より上回りたい」と目標を話してくれました。



低学年を背負い楽しそうに泳ぐ児童たち